

《 卍 = 章 》

9. 個の表現群

[その(一) 29章19節(18)]

29章19節(18)で我々が注目しなければならぬ表現は、2頁の(Ⅷ)で示したものである。この表現と原文のままにしておいて全節を訳すと、「一体彼等は(人間は) كَيْفَ يَبْهِنُونَ اللَّهَ ثُمَّ يُعِيدُهُ』とある(59)』とある。それはアッラーにとっては容易な事である」とある。

まずこの節の後半部の、「それはアッラーにとっては容易な事である」といふ我々にとつて既に馴染みのある表現に目をとめなければならない。この文中のそれはといふのは我々が問題にしてゐる原文で示された内容の事である。するとそれは前にみてきた10章34

節(35)や30章27節(26)と同一の趣旨のものである。そこでこの構造に於いては30章27節(26)と全く同じである。すると問題の部分であると「كَيْفَ يُبْدِيهِ اللهُ الْخَلْقَ ثُمَّ يُعِيدُهُ」という表現が意味すると「このものも当然それと関係がある筈である。このように見通しのもとに以下に問題の表現を検討しよう。

最初の「كَيْفَ」という語は英語で「えは how に相当するが、この語自体はこの表現の中で別に重要な任務をかつて「さわけではな」。大の存のは残りの「كَيْفَ يُبْدِيهِ اللهُ الْخَلْقَ ثُمَّ يُعِيدُهُ」である。さてこの表現をみると、既に我々が検討を終えた例の表現とよく似て「さ」とは気が付くであろう。我々が「さ」に「さ」の表現の「يُبْدِيهِ」
と「さ」と「さ」が「さ」では「كَيْفَ يُبْدِيهِ اللهُ」となると「さ」の「さ」が「さ」だけである。と「さ」が、さの「يُبْدِيهِ」は動詞の三人称単数形でその主語は「الله」(アッラー)なのであるが、この「الله」は表現には出てこず、「さ」は省略されて「さ」(伝統的のアラビア語文法では、主語「الله」は動

詞 يَبْدُو の中に含まれてゐる() のに對
 して、この يَبْدُو は主語 أَبُو は動詞
يَبْدُو には含まれておらず表現されてゐるだけ
 のこと、この場合 أَبُو と يَبْدُو はあつても
 なくとも同じなのである。従つて相異点はた
 だ一個所、即ち先のが يَبْدُو と يَبْدُو 動詞、後
 のものが動詞が يَبْدُو であることだけである。
 とこがこの唯一の相異点おらず本質的には
 何の相異点もなからである。يَبْدُو は بَدَأَ と
يَبْدُو 動詞の未完了形三人称単数であり、他方
يَبْدُو はその同じ بَدَأَ と يَبْدُو 動詞の أَبْدَأَ
 の未完了形三人称単数である。アラビア語文
 法に於ては、或る動詞の أَبْدَأَ 型は一般的に
 その動詞の意味を使役的 (causative) に替へ
 る傾向にあるが、これはあくまで一般的傾向
 であつて全ての動詞に於て أَبْدَأَ 型はな
 らない。いま論じてゐる بَدَأَ とその أَبْدَأَ
أَبْدَأَ とは、この أَبْدَأَ 型は بَدَأَ の意味を使役的
 にはしなから、亦なくともグループ أَبْدَأَ の用語
 例に於ては同じ意味でつかわれてゐること

が確かめられてゐるのである。故に、音韻の差による修辭的な効果の相異を別にすれば、意味の上で $يَبْدُوْا$ と $يَبْدِيْ$ とは同じものとみなされるのである。従つてこの問題の表現は先には換詁してある。10章4節の $يَبْدُوْا$ と同じ解釈とされるのである。

[39 (=) 29章20節(19)]

29章20節(19)で我々が注目しなければならぬ表現は、2頁の(IX)で示したものである。この表現を原文のままにしておいて全節を訳すと、
 「云々、
 「地上を旅して $كَيْفَ بَدَأَ الْخَلْقَ$ と眺めるが如し」。
 ⑥0 $ثُمَّ إِنَّ اللَّهَ يُنشِرُ النشأةَ الآخرةَ$ 。
 『まゝとにアッラーは万能であられる』となる。
 2頁の(IX)で示した表現はひとまとまりなものになつてゐるが、29章20節(19)で実際に表現されるのは上の訳文の通り、 $كَيْفَ بَدَأَ الْخَلْقَ$ と $ثُمَّ إِنَّ اللَّهَ يُنشِرُ النشأةَ الآخرةَ$ との二つに分かれて
 である。

{ □ 全節の意味の検討 }

① 完了形と未完了形

問題の表現の **كَيْفَ بَدَأَ الْخَلْقَ** の最初の語である **كَيْفَ** は、前にも出てきてそこで説明したように、英語に置きせば **how** である。辞書の **بَدَأَ الْخَلْقَ** が所要である。これは既にみてきた例の一定の表現形式（の前年部）とそっくりである。この問題に「て」の「が」**بَدَأَ** であるのに対して、すでにみた一定のもの「が」**يَبْدُو** であることだけが異なる。と「が」**يَبْدُو** と「う」のは、実は、この **بَدَأَ** と「う」動詞（完了形・三人称・単数・男性形。ヨ一ロ）**يَبْدُو** 系言語の多くは、動詞の基本形として不定詞ととり、辞書にも不定詞で「う」て「う」が、アラビア語では動詞の基本形は、この 完了形・三人称・単数・男性形 であり、辞書にも「う」形でのせられて「う」の 未完了形・三人

称・車数・男性形なのである。つまり両者は同じ動詞であって、しかも人称も数も性も同じで（両者とも主語がアッラー）、ただ時制が異なるだけなのである。

さてここで時制のこの相異について述べなければならぬ。アラビア語の文法的事項を紹介する際に便宜上時制 (*tense*) なるヨーロッパ系言語に特有な概念を用いるけれども、この概念は厳密にはアラビア語の動詞にはあてはまらなないのである。詳しく述べる暇がないので簡単に説明すると、ヨーロッパ系言語に於ける動詞の時制は、話者 (*speaker*) と主件とし、話者がいると想定される時点が中心に置かれ、その話者の時点と同じとみなされるものが現在 (*present*)、以前とみなされるものが過去 (*past*)、以後とみなされるものが未来 (*future*) であるのに対し、アラビア語の動詞は話者の時点を中心とする時間の流れの中にくみこまれるとなく、動詞の著者自身 (動作の著者) がその主件として、その時点

1 たものとみ反されるのか(完了形), それとも未だ完了せず継続中であるとみ反されるのか(未完了形)のカテゴリーにくみ込まれるのである。アラビア語の動詞を説明する際には、従って、時間的要素が含まれて「存」=とに注意せねばならない。具体的には、完了形の動詞で表現されるからと「」でも、存にも時間的に過去のこと、過ぎ去ってしまって現在とは関係のないことと意味して「」とは限らず、また未完了形の動詞で表現されて「」からと「」でも、過去とは無関係な現在な「」し未来のことだけが言われて「」とは限らない。動作・状態がそれ自体として終了して「」の「」は継続中であるのかと「」事柄は、話者の時点を中心とする過去から未来への時間の流れの中のどの時点にも出没できるのである。

'أبدأ' と「」動詞は、はじめ、はじめにへ～とあらしめる「」意味(の完了形・三人

新・車数・男性形) であるが、بَدَأَ الخَلْقَ と「はじめ
 的語」ともなつて、即ち بَدَأَ الخَلْقَ で、はじめ
に الخَلْقَ とあらしめる と「意味 (の完了形・
 三人称・車数・男性形) になる。それと並に
 みた بَدَأَ الخَلْقَ と「それは、それと同じ意味即
ちはじめに الخَلْقَ とあらしめる と「意味の未
完了形・三人称・車数・男性形 である。説明
 の便宜のため上記の はじめに الخَلْقَ とあらしめ
る と車に 創造する に置き換えて考えよう。可
ると創造する の完了形と 創造する の未完了形
 (但し完了形、未完了形はともに上に説明し
 たアラビア語文法に用いられる場合の用語で
 あることを銘記せよ) が問題となるわけであ
 る。創造する の完了形とは、創造が既に完成
して いると「意味し、創造する の未
完了形 とは、創造は未だ継続中 であるとして
 「意味する。創造の御考へ、この「完成」と
継続 とが時の流れの中でのどの時点 (過去であ
 ると、未来であるかと、現在であるかと)
 でも生ずるのである。それ「意味で、「物

ば時間を超越してゐるといふ。

② 完成と継続

時の棒を股した二の完成と継続とに於いて
 . また次の如くに考へられるのである。クル
 アーニに於いては、継続即ち創造としてある
 とする事柄は、いつか未来に於けるその創造
 の完成と目差し、未だ達せざるその完成にいつ
 か未来に到達せむものとしてゐることゝ
 違はぬ。端的に言えば、創造の継続と創造